

新会長就任のご挨拶



FSRJ 会長

中込 秀樹

(千葉大学大学院 工学研究科 教授)

前会長の日本大学の真下先生の後を受けまして、会長に就任いたしましたので、ひとことご挨拶をさせていただきます。以前メールでも会員の皆様に配信させていただきましたが、私は株式会社東芝において超電導・極低温並びに環境関連の研究開発と製品化に携わりました後に、縁ありまして千葉大に勤務することとなり、現在に至っております。私が今まで経験しましたことから特に大事だと思っている三つのこと、「実用化」、「ご縁」、「志の共有」に関してここで簡単に述べさせていただきます。

「実用化」

プラスチックの油化システムがなかなか世の中に普及していかない現在の状況の中で、企業出身の会長としては、何を置いてもこれを掲げざるを得ません。超電導でも環境でもそうでしたが、企業は新しい技術には必ず飛びついてきます。その後産官学による研究開発の期間が続いて、幸運な一握りが製品化にまでたどり着きます。しかしそれでめでたしめでたしではありません。油化システムのような大きなシステムがトラブル無く稼働するようになるまでには、さまざまなトラブルシューティングが伴います。その間の人件費や機械費の費用は膨大なものとなります。それらが一段落して、二号機、三号機の話が出てきますと、今度はコストダウンの壁が立ちはだかります。しかし現状のプラスチック油化システムはこれらの高価な授業料を既に払いきって、技術的な課題はかなり解決済みです。今後も経済的な観点からのエネルギー効率の向上や各種コストダウンは必要ですが、この研究会としましても是非いろいろな観点からこの技術を支えていくべきだと思います。

「ご縁」

私は余程の事情が無い限り、人から依頼されましたお役目はお断りしないことにしております。今回のこともそうでした。その理由は、お引き受けしましたところに出向いて、何人かの方とお話をしてみますと、必ずと言って良いほど双方の旧知の方に行きあたるのです。それは偶然もあるかもしれませんが、五十から六十代の年齢になってきますと、同じようなフィールドに留まっている人がかなり限られてくる事による必然なのかもしれません。従いましてもし私が一つでも「ご縁」をお断りしてしまいますと、せっかくのめぐり会いの機会を失うばかりで無く、その次の機会も恐らく失ってしまうことになると思います。多忙でたいへんでもご縁が次々と広がっていく方が、時間的な余裕ができてしましても折角のご縁をお断りしてしまって世界が狭くなってしまふことより、数段良いと考えております。

「志の共有」

東芝に入社して極低温関連の研究開発を行っていました頃の主たる活動の場は低温工学・超伝導学会でした。発表会では我々企業人と大学や国立研究所の先生方と白熱した議論を行い、それらが自分たちの研究開発にも大きくプラスとなっていました。その後環境関連のセクションに移動して、熱分解ガス化システムの開発に従事することとなり、ある時、成果を機械学会の動力エネルギーシンポジウムで発表することとなりました。私は以前の低温工学・超伝導学会での経験があるので、また白熱した議論ができるものと思いながら、わくわくして発表に臨みました。しかし、質疑の時間になっても会場はシーンと静まり返ったままでした。その後機械学会系や化学工学系のいくつかの学会で発表しましたが、状況は似たり寄ったりでした。つまり低温工学・超伝導学会は極めて狭い専門領域に産官学のメンバーが集まっていたので、白熱した議論となったわけです。一方、機械学会のほうは専門領域や製品領域が広すぎるために、私の行っている研究開発と同様の内容を行っている方々は会場の中でもごく一部に限られるということに気づくのにしばらくの期間を要しました。それからこの研究領域でも白熱した議論の展開ができますような研究発表会を探し始めました。その結果たどり着きましたのが、日本エネルギー学会のガス化部会とこのプラスチックリサイクル化学研究会でした。機械学会のような巨大で権威ある学会ももちろん必要でしょうが、本研究会のように研究や製品開発に対する「志の共有」ができる人たちが集まって白熱した議論を行う場をつくることもたいへん重要なことではないでしょうか。

ごあいさつの割には、好きな事を長々と書かせて頂きましたが、これらは私が常日頃より強く思っていることです。会員の皆様の中より、多少でも共感頂ける方々がおられましたら、是非絶大なるご支援をお願いいたします。

以上